



学校ブログ随時更新中です。本校の教育活動をぜひご覧ください！！

チャレンジ

校長 高橋 義樹

新学期が始まり2か月が過ぎました。休み時間にはそれぞれが思い思いに活動しています。晴れた日は広い校庭でボール遊びを楽しんだり、遊具で遊んだりしている姿が見られます。チャイムが鳴ると、満足げに教室に戻っていき、気持ちを切り替えて学習に臨んでいます。

今月は、全学年で新体力テストを実施します。新体力テストは①握力、②上体起こし、③長座体前屈、④反復横とび、⑤20mシャトルラン、⑥50m走、⑦立ち幅とび、⑧ソフトボール投げの8種目を行います。昨年の本校の結果を見ると、③長座体前屈(柔軟性)や、⑧ソフトボール投げ(投力)は、県平均を上回っている学年が多く、好成績を収めています。一方、①握力には課題が見られます。普段の体育の学習や運動会練習、また休み時間の外遊びなどを通して、子ども達の体力は向上していきます。子ども達が自分の記録を更新することができるよう、本番で力を発揮できるよう、チャレンジしてほしいと願っています。

また、梅雨入りを迎える季節となります。雨により室内で過ごすことが多くなるかもしれません。この機会にたくさん本を読んでほしいと思います。学校には、先生達がおすすめている本があります。また学校応援団の方々が朝の時間に読み聞かせをしてくれています。本を読むことで「読解力」が身につく、想像力、表現力、思考力も養われていきます。絵本、小説だけでなく図鑑や伝記、歴史の本など、学校には様々なジャンルの本があります。自分の世界を広げるためにも読書にもチャレンジしてほしいと思います。

過日の運動会を始め、地域・保護者の皆様には、本校の学校教育に温かくご支援いただき、誠にありがとうございました。皆様にご協力していただきながら、1学期の振り返り地点を迎えることができました。日頃のご支援に改めて感謝申し上げます。

リリアでオーケストラ

6/25(木)6年生は
音楽鑑賞教室のため
お弁当です

ご準備を
お願い
します



すきまの6月に気をつけていきましょう

6月は小さな行き違いや、言葉のやりとりから、けんかやトラブルに発展する時期でもあります。成長途上中の子どもたちは、トラブルから「交友関係のあり方や、友達との距離感、ことばの大切さなど」学ぶことも多々ありますが、子どもたちに考えさせる機会を大切にしつつ、円満に解決できるよう大人の支援も必要です。

ぜひ、6月はお子さんの様子(表情、持ち物、お金の使い方等)にも、とくに注意をはらい、心配な点は早めに担任までご相談ください。



6月・7月学校行事予定

日	曜日	6月	曜日	7月
1	月	体力向上週間②/読み聞かせ(1～3年・ひ)/クリーン作戦/	水	朝会/はっぴー/委員会④
2	火	体力向上週間③/文化庁演奏会(体育館)	木	ひまわり学級プラネタリウム見学
3	水	体力向上週間④/朝会/はっぴーT/委員会	金	
4	木	体力テスト(～6/13)	土	
5	金	眼科健診(全児童対象)	日	
6	土		月	他校研修会参加のため全学年S日課4時間給食終了後下校
7	日		火	
8	月	読み聞かせ(4～6年)	水	SST/全学年5時間授業/はっぴーT
9	火		木	SC教育相談日
10	水	児童集会②/はっぴーT/クラブ①	金	新郷東小学校安全の日
11	木	新郷東小学校安全の日/4・5・6・年歯科健診(佐合先生)/学校運営協議会	土	
12	金	耳鼻科検診(3年+抽出)	日	
13	土	学校公開(2・3・4校時目)/4時間目終了後引き渡し訓練	月	
14	日		火	
15	月	振り替え休業日	水	給食終了/全学年5時間授業
16	火	新体力テスト予備日/6年生社会科見学	木	特日4時間
17	水	SST③/はっぴーT/クラブ②	金	終業式/通常3H
18	木	1・2・3・ひ歯科健診(小久保先生)	土	
19	金		日	
20	土		月	祝 海の日/夏季休業日開始
21	日		火	個人面談①
22	月	読み聞かせ1(1～3年・ひ)	水	個人面談②
23	火	6年生研究授業/全学年5時間授業	木	個人面談③
24	水	児童集会③/はっぴーT/全学年5時間	金	個人面談(予備日)
25	木	6年生音楽鑑賞教室(リリア)/※ <u>6年のみ弁当</u>	土	
26	金		日	
27	土		月	
28	日		火	
29	月	読み聞かせ(4～6年)/クリーン作戦	水	
30	火		木	
			金	

予定の変更・修正があった場合はスクリレまたは各学級の予定表にてお知らせいたします。

6月13日(土)は学校公開日

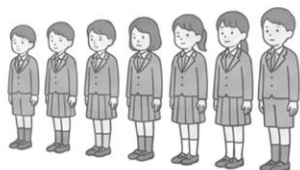
2・3校時 各学級通常授業 4校時 避難訓練＋引き渡し訓練

令和8年度、新郷東小学校の新たなチャレンジのひとつとして「探究型避難訓練」をスタートします。巨大地震がいつ起きても不思議ではないと言われている今、「命を守るための実践的な力」を身に付けることは、子どもたちにとっても、私たち教職員にとっても最優先の課題です。この新しいスタイルの訓練をあえて学校公開日に実施するのは、保護者の皆様に「子どもたちが自ら判断して動くリアルな姿」を見ていただき、防災への思いを共にしたいと考えたからです。この取組が、家庭、学校、そして地域全体で子どもの命を守る「大きなうねり」の第一歩になると確信しています。これは私たち教職員の切なる願いでもあります。以下に、今回導入する探究型避難訓練の経緯と概要をお知らせいたします。なお、後日配付いたします案内手紙では、当日の詳細なタイムラインや引き取りのルールについてもお伝えしますので、合わせてご確認ください。

なぜ、いつもの「整然とした訓練」をやめるのか？

これまでの避難訓練は「先生の指示通りに、素早く静かに動く」ことが目標でした。しかし、本当の災害時は先生がそばにいないかもしれません。

従来の訓練（これまでの常識）



目的： 指示通りに動くこと
行動： 先生の合図を「待つ」
状態： 予定調和でトラブルなし

新しい訓練（探究型）



目的： 自ら考えて命を守ること
行動： 状況を見て自ら「判断する」
状態： 想定外のトラブルに直面する

封筒の中に書かれた状況を共有し、子どもたち自身でできる対応を考えます。教職員も状況をその場で初めて知り、子どもたちと共に次への対応を考えます。

学校防災の考え方のアップデートがスタートでした



状況を見ずに外へ飛び出すのは危険？

現在の学校の校舎は非常に高い耐震性を誇ります。やみくもに外へ飛び出すよりも、「教室にとどまり、周囲の危険箇所を把握して次の行動を考える」ことが、実は命を守るための最適な行動（最適解）なのです。指示待ちから、自ら動く子へ。パラダイムシフトが始まります。

避難先が校庭一択で想定される問題点

・避難行動中の余震の心配。暑さ、寒さ、雨などの天候の影響も大。

・がれき、ガラス飛散、落下物のちらばる中、一斉に多数をうわばきで歩かせる危険性。

・けが、体調、心身不調トイレ不安、でも外に行くのか。

最適解への選択肢（火災やその他の危険がなければ教室待機等）は多い方がいいのではないか。

前提の変化：学校は「倒壊しない」時代へ

0件

阪神淡路大震災以降の震度7の地震における、耐震化済・新耐震基準の学校の「倒壊・大破」件数。

建物が安全になった

「校庭への避難一択」からの脱却

状況に応じた教室待機(安全確保)

「指示を待つ」から、

これまでの訓練



先生の指示通りに動く



黙って整然と並ぶ



予定調和で完璧を目指す

「みんなで考える」へ。

今年の探究型訓練



自分で、みんなで対処法を考える



状況を声に出して共有する



想定外のトラブルに向き合う

従来型(校庭避難)訓練
「火災発生や校内に校舎重篤被害時は必要」
本校では4月に実施済み



ステップ1:地震発生
揺れを感じたら、まずは落ち着いて
周囲の状況を確認します。



ステップ2:机の下に一次避難
落下物から身を守るため、素早く机
の下に入り、脚をしっかりと構えます。



ステップ4:校庭へ避難
廊下で整列し、「お・は・し・も」を
守って静かに校庭へ移動します。



ステップ3:地震おさまる
揺れが収まったら、次の指示が
出るまで静かに待機します。



ステップ5:校庭で整列
指定された避難場所に学級ごとに
集まり、素早く整列します。



ステップ6:安全確認を報告
担任が児童の安否を確認し、
速やかに校長へ校況を報告します。

今回はこの避難訓練ではありません

探究型「封筒訓練」で育つ！ 自ら考え動く力：新しい避難訓練のカタチ

従来の「指示通りに動く」訓練から脱却し、子どもたちが自ら状況を判断して
行動する「封筒訓練」のプロセスとその教育的価値（優位性）を伝える。

1.【想定外へのスイッチ】：
「指示待ち」から「真剣な当事者」へ



封筒を開けた瞬間、与えられた状況を
自分事として捉え、表情が引き締まります。

2.【対話が生む判断力】：
仲間と頭を突き合わせて相談



先生の指示を待たず、「ガラスが割れているから
あちを通ろう!」と仲間と判断します。

3.【失敗のない試行錯誤】：
動いて気づく、現場のリアル



「あ、ここも通れない!」という気づきが学
び。「ここでの対応に失敗はない」のです。

4.【課題発見という大成功】：
見つけた不具合は「100点の証」



「放送が聞こえなかった」という課題の報告
こそ、命を守るための最高の結果です。

新しい訓練の「前向きな」捉え方



不具合・不明点は
「課題の発見」
という大成功

予定通りにいかない「想定外」を、共に解決
策を考えるポジティブな機会として捉えます。



「ここでの対応に
失敗はない」

必死に考え、判断しようとするプロセス
そのものが、自助・共助の力を育みます。

今回の取組で保護者の皆さん
と共有したいこと

ねらいは、スムーズに行くことではありません。
想定外の状況下での子どもたち自身で「自分ができること」
を考える訓練(気づき)であり、困難な状況下での
教職員の対応力の向上(現状の課題発見)です。